

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	4点満点 評価	改善策	学校関係者評価でいただいた 意見等	
心豊かに たくましく生きる 神戸の子ども を育む	明るく元気な子ども 友達となかよく遊ぶ子ども 思いやりのある子ども	明るく元気な子ども	自分から意欲的に遊び出す	子どもが興味をもって遊び出しくなるように、園内の環境の構成を整えていった。自分の好きな遊びを見付けて、意欲的に遊ぶ姿が見られるようになってきたので、今後も子どもの興味に合わせて環境を再構成していく。	4	普段から、子どもの興味・関心を読み取り、「やってみよう」と思えるような環境の構成を意識していく。	幼児の姿に応じた意図的な環境の構成がされていることで、どの幼児も自分のお気に入りの遊びを見付け、意欲的に遊び出していると感じる。	
			自分の思いをのびのびと表現する	教師が子ども一人一人の思いを丁寧に受け止めていき、安心して自分の思いを表現できるようにした。また、友達と一緒に表現して遊ぶ機会を積極的につくり、楽しい雰囲気の中で表現できるように支えていった。	4	子どもの素朴な表現などを逃さず受け止め、どのような表現であっても認めていくようにする。	自分のしたいことが、自分のタイミングでできるところがよい。	
			基本的な生活習慣を身に付ける	一人一人の子どもに合わせて支えていったことで、概ね身に付いてきた。『やくそくひょう』を通して、家庭とも連携しながら引き続き支えていけるようにする。	3	担任と養護教諭とが連携しながら、『やくそくひょう』の内容を、子どもの実態に合わせて検討していくようにする。		
		友達となかよく遊ぶ子ども	いろいろな友達と触れ合って遊ぶ	友達同士のかかわりを仲介したり、クラスみんなで触れ合い遊びをしたりしたことで、自分たちで誘い合ったり相談したりしながら遊ぶようになってきた。また、異年齢児とのかかわりを楽しむ姿も見られるようになった。	4	幼稚園全体で保育を進めていくことを心がけ、クラス、年齢関係なく子ども同士のかかわりを支えていけるようにする。	友達と誘い合いながら自分たちのしたいことを見付けて遊ぶ中で、しぜんと友達関係も広がっている。	
			自分の思いを友達と伝え合って遊ぶ	クラスや友達と感動体験を積み重ねていったことで、自分の思いを誰かに伝えたいという気持ちをもつようになってきた。必要に応じて教師が仲介しながら、思いを伝え合って遊びを進めていく楽しさを感じられるように支えていく。	4	子ども同士で思いや考えを伝え合って遊びを進めていける時間を十分にとれるように、保育にゆとりをもち、計画的に進めていくようにする。		
			集団生活に必要な決まりに気付く	簡単なルールのある遊びをしたり、自分たちで遊び方を考えたりできるように支えていったことで、きまりの必要性に気付くようになった。	3	教師自身が意識して、子どもの発達に応じたルールのある遊びを取り入れていくようにする。		
		思いやりのある子ども	身近な動植物に触れて遊ぶ	身近な動植物に興味をもって関わる姿を支え、遊びに取り入れたい世話したりしながら、命があることに気付き、大切にできるようにした。	4	季節毎の動植物に親しめるように、園内の環境を整えたり、計画的に園外に出かけていくようにする。	都賀川沿いを親子で歩いて登園する中で、季節の移り変わりや変化を感じているのではないかと。	
			様々な感情経験を積む	子ども同士の関わりを見守るようにし、友達との関わりの中で様々な感情経験をできるようにすることで、相手の思いに気付いたり、自分の気持ちを調整したり、表現したりできるように支えていった。	3	トラブルなどが起きたときには、すぐに仲介に入るばかりでなく、子ども同士で思いを伝え合ったり、相手の思いに気付いたり、自分たちで解決できるように支えていく。		
			感性を豊かにする	機会を捉えて園外に出かけるようにし、身近な自然と触れ合ったり、地域の方と関わったりする中で、いろいろな発見を楽しんだり、感じたりできるようにした。また、教師自身の感性も豊かにし、子供とかわるよう心かけた。	4	地域の特色を保育に取り入れることができるように、普段から環境の変化などを意識して地域を歩くようにする。	幼稚園で学んだことを普段の生活の中でも結び付けて遊ぶ姿から、幼稚園でいろいろなことを経験しているのだと感じる。	
		安心 安全で楽しい学校を築き、 地域と共に子どもを支える	保育の評価	保育記録の活用	保育記録を継続して書いたり、職員で回覧したりしながら、職員全員で幼児理解を深めたり、環境の構成や教師の援助の方向性を共通理解したりできるようにした。	4	日々保育記録の取組力を工夫し、継続して書き、回覧できるように続けていく。そして、職員で子供の姿や育ちを共有できるようにする。	
				園内研修の充実	互いの保育を見合い、指導し合うことで、保育力の向上を図っていった。また、何でも言い合える職員関係を築いていき、互いに資質・能力を高めていけるようにした。	3	普段から互いの保育を見て、気が付いたことを伝えたり、相談し合ったりしながら、相互的に保育力を高めていけるようにする。	
			いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)			普段から子どもの姿について話し合いながら、育てたい子ども像の共通理解を図り、園全体で指導していけるようにしていった。	4	一人一人が「いじめ防止基本方針」を理解しながら、幼児理解に努めたり、保育を行ったりしていく。
超過勤務時間の削減			職員会や職員作業は時間を決めて計画的に行ったり、声をかけ合って仕事を進めたり、仕事を分担したりしていき、定時までに業務を終わらせることができるようにする。	4	ホワイトボードを活用しながら、計画的、組織的に仕事を進めていけるようにする。	・進学先が増えているということは、いろいろなところから公立幼稚園の良さを知って来てきているのではないかと。灘区の公立幼稚園として大切にしていきたい。		
地域行事への参加、PTA活動への協力			地域行事等に積極的に参加したり、幼稚園が核となって地域や保護者をつないだりしていき、連携しながら子どもの育ちを支えることができるようにし、地域に開かれた幼稚園を目指す。	3	地域やPTA行事に参加した際には、子どもと一緒に感謝の気持ちを伝えるなどして関係を深めていけるようにする。	・幼稚園の時の保護者関係がとても大切である。ひろばや園庭開放の時間が保護者同士の関係を深める機会にもなっている。		